

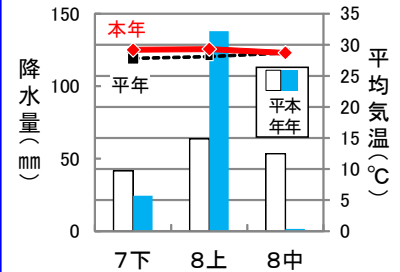
# 農作業一口メモ (平成29年9・10月号)

鳴門藍住農業支援センター  
鳴門藍住地区農業生活指導班会

## 気象 <四国地方 1か月予報 (8月19日~9月18日)>

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすく高いでしょう。2週目は平年並の気温となる時期もある見込みです。期間のはじめは気温がかなり高くなる可能性があります。

気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすく、向こう1か月の降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ないでしょう。  
(8月17日高松地方气象台発表)



## ブロッコリー ・ カリフラワー ・ キャベツ



### <9月の管理について>

育苗

- かん水は、朝十分行い、播種後10日後から液肥等で追肥をしましょう。なお、前作にIRACコード28の薬剤（プレバゾンやベネビア）を使用したほ場では抵抗性の発達回避のため、IRACコード28の薬剤灌注はさげましょう。
- 排水性、保水性がよく、かん水可能なほ場を選びましょう。
- 根こぶ病発生ほ場では、できれば、「根こぶ耐病性品種」を選択し、「アルカリ資材の投入」や根こぶ病登録薬剤による防除に努めましょう。

本ぼ

- 排水対策を十分に行い、本葉4~5枚で定植し、中・晩生種でも遅くとも本葉7~8枚までに定植しましょう。

### <10月の管理について>

- 定植後、登録剤の散布によりアブラムシやヨトウムシ等の被害防止に努めましょう。
- 最後まで肥切れしないように追肥しましょう（一回目の追肥は、定植後10~15日の根が完全に活着した頃）。
- 追肥と同時に、雑草の発生や倒伏防止のため土寄せを行いましょう。

## なのはな



### <10月の管理について>

- 直まきしたら、本葉4枚までに間引き、1株にしましょう。
- 移植栽培は本葉3~5枚で定植します。活着するまで十分にかん水しましょう。
- 寒くなる前に大きな株に育てましょう。月に2~3回追肥し、中耕、土寄せしましょう。また、大雨に備え、排水路を整えておきましょう。

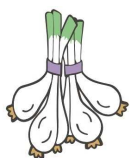
## レタス



### <育苗管理について>

- 気温が25℃を超えると発芽率が低下するため、発芽までは、不織布等による遮光や通風により気温の低下を図りましょう。
- 発芽後は、不織布等はずして光に当てましょう。
- 徒長苗とならないよう天気によってかん水回数を調節しましょう。また、夕方のかん水は避けましょう。
- 定植前に肥料を切らさないよう、播種後15日目頃から低濃度の液肥かん水を行いましょう。
- 害虫被害を防止するため、ジュリボフロアブルを定植前日から当日までに、200倍でセルトレイ1枚当たり0.5Lをかん注すると、定植後約1ヶ月間高い防除効果が持続します。

## らっきょう



### <9月の管理・種球の消毒について>

- 赤枯病やネダ二類の主因は種球由来とされています。植え付け前の種球の選別・消毒を徹底し、発生を予防しましょう。

### <10月の管理・植え付け後の管理>

- 地上部の生育を見ながら1回目の追肥を行いましょう。
- ネダニ・アザミウマ類が開花期頃に発生しますので、早めの防除に努め、品質の良いらっきょうを生産しましょう。

## たまねぎ



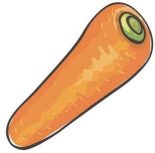
### <9月の管理について・育苗>

- 灌水ができて、日当たりや排水良好な圃場に苗床を設置して下さい。播種適期は、早生品種で9月中旬、中・晩生品種で9月下旬です。早播きすると、とう立ちしやすくなるので、適期に播種して下さい。
- 苗床が乾燥すると出芽が著しく悪くなるので、ワラ等で覆って乾燥を防ぐとともに、適宜灌水して下さい。
- 播種後7～8日で発芽しますので、早めに覆いを取り除き、苗立枯病予防の農薬を散布します。
- 本葉3枚までに株間1cmになるよう間引きし、生育に応じて液肥を散布し、締まった苗を作りましょう。
- 近年本圃でのべと病の発生が増えていますので、育苗中から予防散布を行なって下さい。また、ヨトウムシ類などの発生にも注意し、早めの防除を心がけましょう。

## 農薬の適正使用 <いつものチェック、忘れずに！>

- 農薬はラベルの記載事項を守って使用することによって、農作物や食の安全が守られます。
- 農薬ラベルに書かれている適用作物、農薬の使用濃度、使用時期、使用回数等を守って散布しましょう。
- また、周辺圃場で作物が栽培されている場合には、散布した農薬が飛散しないように、風向・風速に注意しながら、適切な散布圧力で散布しましょう。
- 炎天下での長時間の散布は避け、朝夕の涼しい時間に作業して下さい。

## にんじん



### <9月の管理について>

- 良質堆肥を2～4 t 施用しましょう。
- 水田後の稲ワラには石灰窒素40kgを全面に施し、できるだけ早く深耕しましょう（遅くとも、播種30日前まで）。
- 基肥は、播種10日前までに全面施用しましょう。
- ほ場は、できるだけ多く耕し（5～10回）、高畦としましょう。

### <10月の管理について>

- 元肥は播種10日前までに全面に施用し、できるだけ多く耕し（5～10回）、高畦にしましょう。
- 10月播きに発生が多いヨトウムシ類に注意し、加害初期の幼齢期に防除しましょう。

## だいこん



### <播種から生育初期の管理について>

- 播種時期によって品種が変わるので、栽培暦を参考に適切な品種を選んでください。
- 追肥は、本葉6～7枚が1回目、本葉10～12枚が2回目の目安となっています。
- 雨が少なければかん水を行ってください。
- だいこんは塩分の影響が大きい作物なので、水の塩分濃度に注意してください。
- 台風等による大雨が降った場合は、速やかに排水するとともに中耕して通気性を良くしてください。また、降雨前後、殺菌剤の散布を行うことも重要です。
- 病害の発生を防ぐために殺菌剤を散布してください。

## かぶ



### <播種前及び生育初期の管理について>

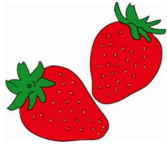
- 8月中旬から播種が始まりました。労力に応じて計画的に作付けし、長期連続出荷をめざしましょう。
- 土壌養水分を適切に保てるように、堆肥を施用し、深耕を行いましょう。また、大雨に備え排水溝を作っておきましょう。窒素肥料が多すぎると、葉が徒長して根の肥大が遅くなったり、裂根の原因にもなりますので、適切な施肥管理を行いましょう。
- 播種から生育初期にかけては、土壌水分を適切に保つようにしましょう。
  - ・キスジノミハムシ、アブラムシ類の発生が心配な場合は、播種前に防除しましょう。

8月10日～10月10日は、「秋の農作業安全運動月間」です。

農繁期をむかえ、多忙な作業の続く毎日ですが、十分な休憩と睡眠をとり、過労による事故を防ぎましょう。また、作業前・作業後の機械の点検整備を行い、計画的な作業に努めましょう。



## いちご



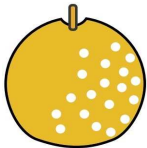
### <定植前後の管理>

- 育苗後半は、花芽分化促進のため徐々に植物体内の窒素濃度を下げますが、芯止まりの発生を防ぐためにも様子を見ながら、微量要素入りの液肥を施用しましょう。
- 定植前～定植後のビニール被覆までは、炭そ病、うどんこ病、ハダニ類、アザミウマ類などを徹底防除し、本ぼに持ち込まないようにしましょう。
- また、定植後2週間は少量多灌水により活着を促進しましょう。

### <ビニール被覆までの管理について>

- マルチ張りは10月上中旬に行い、作業後10～15日くらいは、マルチを肩まで上げ、その間土壌の乾燥に注意しましょう。
- ビニール被覆を10月下旬に行い、被覆後7～10日は昼夜十分換気しましょう。
- ビニール被覆前までに、病害虫の徹底防除をしましょう。
- 蕾が出始めたら窒素成分で1kg/10a程度、液肥などを中心に追肥しましょう。
- ミツバチは開花期にあわせて計画的に導入しましょう。

## なし



### <収穫後の管理について>

- 収穫後も乾燥が続くようなら、かん水は必要です。
- 本年度も、コナカイガラムシ類が産地全域で多発傾向です。黒星病を含め、これらの病害虫を来年度に持ち越さないためにも、秋防除が特に重要です。

## かき



### <炭そ病対策を十分行いましょう>

- 炭そ病は、気温が低下してくると感染しやすくなります。また、台風や大雨で多発するため、降雨前後はしっかりと防除しましょう。うどんこ病と同時防除がいいでしょう。
- カメムシ類の飛来が認められたら防除しましょう。
- 園地を見回り、日焼け果や擦れ果などの商品性の低い果実は早めに摘果しましょう。

### <収穫・出荷の注意点について>

- 着色の良いもの（カラーチャート4以上）から丁寧に収穫しましょう。早すぎる収穫は避けましょう。
- 炭そ病の被害果は被害果は翌年の発生源となるため、見つけ次第園外に持ち出して処分しましょう。



Facebookはじめました。

鳴門藍住農業支援センター

検索

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

[http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/)

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515